教育学部後援会誌

第13号

CONTENTS

◆後援会会長あいさつ………………… 1
◆教育学部長あいさつ………………… 2
◆教育学部リニューアル……………… 3
◆学生の年間スケジュール紹介 …… 4
◆卒業生の声 ………………………………… 8
◆後援会活動の概要…………………… 11
◆後援会幹事名簿……………………… 12

「教師力」「人間力」の向上

後援会会長　日　野　寿　明

島根大学教育学部後援会の皆様には、日頃より後援会活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。本年度、会長を務めさせていただくこととなりました日野と申します。皆様のお力をお借りして、本後援会が益々発展するよう、誠意を持って取り組んで参りたいと考えております。ご指導ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、早いもので子どもが教育学部に入学して３年が経過しようとしています。入学に際し、教育学部の主な特色として「地域密着型学部」、特に山陰両県において「現代的、地域的教育課題を解決する高度な専門性を持った教員を養成する」ことを最大の使命とすると伺った事を思い出します。

最近の教育現場については、新聞やテレビなどマスメディアからの情報しか得られませんが、いじめや不登校といった複雑で多様な課題や悩みを抱える学校が未だに多数あるものと感じます。学ぶべく高度で専門的な知識や技術は日々進化を求められますが、学びを求める子供達は、いつの時代も純粋で、未知なる新しい世界を教え導いてくれる師を求めています。

教育学部で取り組んでおられる「プロファイルシートシステム」や「1000時間体験学修プログラム」等は、教師になるためのスキル習得に加え、子供達や地域社会とのふれあいを通じ、教師力の醸成はもとより、人間力も向上させていただけるものと確信しております。

本後援会は「島根大学教育学部の発展充実に寄与し、在学生の教育に関し、学部に協力すること」を目的に、昭和27年から今日に至るまで、学部長先生をはじめ、教育学部関係者の皆様、活動を支えてこられた各方面の諸先輩方のご尽力により、学生の皆さんが実り豊かな学生生活が送れるように支援を続けることができております。主な事業として、「1000時間体験学修」などの学生教育活動の支援のほか、教育実習、就職活動、教育環境整備などに係る経費の助成を行っております。こうした支援は、教育学部の明確な目標と方針と相まって確実な成果となって現れ、教員就職率のアップにつながり、全国の国立系教員養成大学・学部のなかでも常に上位に位置づけられているとお聞きしています。学生の皆さんの努力はもちろんですが、教育学部関係者の皆様のご尽力に心から敬意を表し、感謝申し上げます。

「教師になりたい」という夢をもって入学した学生の皆さんは、学びの過程で「教師になる」という目標へと意識が変わっていくことを実感し、目標と位置付けたことで、さらに努力を続ける、頑張れる自分自身に気づくことと思います。そんな学生の皆さんを後援会は応援していきます。また、後援会の皆様には、後援会組織としての直接支援の他に、職場又はお住まいの地域で、1000時間体験学生を受け入れるなど、学生の皆さんが学外で活動する際にも積極的なご支援をお願いいたします。

皆様のご理解を賜り、ますます充実した後援会活動ができますよう、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

「教師になる夢の実現に向けて」

教育学部長　小　川　　　巖

教育学部後援会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素から、本学部の教育・研究活動、就職支援活動等に多大のご理解とご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

平成29年度入学生の保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。お子様たちの「教師になる」という夢や将来の「社会人としての自立」に向け、学部教職員共に一丸となって支援していく所存です。保護者の皆様の本学部教育へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

本学部は、平成16年度に、島根県・鳥取県両県の教員養成を担う基幹学部として、鳥取大学の現在の地域学部との再編統合を経て、教員養成に特化した新たな学部としてスタートしました。医学部や薬学部と同様の、高度な専門職業人を養成する、いわゆる「目的養成学部」です。

本学部の特色として、「1000時間体験学修プログラム」や「プロファイルシート（教師力総合支援システム）」、また、就職支援活動としての「未来教師塾」があります。

３月24日に卒業した後、多くの卒業生は、遅くともその２週間後には教壇に立ちますが、教師は授業をするだけではありません。保護者との面談もあります。また、今日の学校は地域と協働しながら教育を行う使命をもっています。これからの教師は、学校の中での同僚性に留まらず、学校外の地域の多くの教育・教育外専門家等との協働力が必要とされます。

平成27年12月に「これからの学校教育を担う教員の養成・育成や学校のあり方に関する中央教育審議会」の答申が公表されました。これらにおいて、これからの教員にとって必要な資質として、一生涯、学修し続けるタフさや、持続する探究心・向上心などと共に、同僚教員はもとより、スクールカウンセラーなど学校教育以外の専門家との高い協働力が必要であることなどが明示されました。

では、そのような「力」はいつ、どこで、どのようにつけるのでしょうか？　本学部では平成16年度の新生教育学部から、大学から地域社会に出て行くまでの連続性を意識した学部教育プログラム・体制を構築してきました。講義・演習のみではなく、地域の学校や諸機関・団体に出かけ、様々な人たちと交流する中で、長い教職生活の基盤になり得る社会人力や専門的職業人力を養う「1000時間体験学修プログラム」を発展させてきました。

現在、平成31年度を目途に進められている新たな教員免許制度の実施に関って、教育実習のみならず、学部段階において地域の学校での多様な体験を行う「スクール・インターンシップ」も、教員免許取得の要件になり得ることが明らかにされています。本学部が、実践力をもった教員の育成のために平成16年度から実施してきた「1000時間体験学修」の妥当性・正当性を示唆するものだと、学部教員一同とらえています。

上述してきた平成27年12月の答申や新たな教員免許制度においては、ＩＣＴ、グローバル教育、アクティブラーニングなど、現代的教育課題に対応可能な教員を育成する必要性が述べられています。

平成16年度からの新たな教育学部がスタートしてから12年が過ぎましたが、このような背景からも「平成29年度から教育学部はリニューアル」します。本学部は、現代的教育課題や地域が抱える教育課題の解決に資する、これからの時代に必要とされる教師の育成を、新たな教育課程や主・副専攻制度によって目指します。（なお、リニューアルされる教育学部の概要については、このあと説明の頁を設けさせていただいています。）

平成29年度からの教育学部においても、「プロファイルシート・システム」を継続します。これは、学生が自らの育ちを自己評価し、これからの自分を展望し、指導教員と直に語り合うためのポートフォリオです。

評価内容は講義・演習に関連するもののみならず、そこには体験学修の成果も含まれています。ただ単に学外に出て体験すればよいというものではなく、送り出す前や後の指導、さらに体験によって自分に何がもたらされたのか、またそれが演習で得た知識・技能と自分の中で統合されているかなど、本学部は、厳密な評価ー支援システムを整備した上で体験学修を推進しています。

後援会の皆様には、学内環境整備はもとより、「1000時間体験学修」に必要な旅費等の援助、就職支援の一環として教員採用試験対策用書籍の整備、また就職に関わる諸訪問のための交通費の助成等もいただいています。さらには、上述した「未来教師塾（教師力パワーアップセミナー等）」における面接員としての支援もしていただいています。

平成27年度卒業生の教員採用試験合格者は「50名」でした。この年度は企業求人の増加から、新聞でも報道されたように全国的に教育学部卒業生における教員就職率の減少がみえ始めた年です。平成28年度卒業生の合格者は「52名」でした。このような結果を得ることができましたのも、学生個々人の学修努力はもちろんのこと、その支援体制づくりにご協力・援助していただいている後援会の皆様のお力添えがあってのことです。学部教職員一同、感謝申し上げます。

「教師になりたい」という夢を強くもって入学した学生、自分には何ができるのかという不安を抱えている学生など、多様な学生がいます。４年間という限られた大学生活の中で、学生一人ひとりが、将来の夢や未来の目標を自己選択・自己決定し、それに向かっていけるよう、我々学部教職員一同、一丸となって支援いたします。後援会の皆様には、ますますのご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

最後に、今年度からの新たな大学院（教育学研究科）についてご報告します。主に島根・鳥取両県のスクールリーダーを養成するための「教職大学院」が設置されました。新たな教育学研究科は、この教職大学院（教育実践開発専攻）と臨床心理の専門家を養成する臨床心理専攻の二本柱で構成されています。平成29年度からの教育学部教育課程では、学部と教職大学院を結ぶブリッジ科目を準備し、４年間での学部教育の上に、さらに専門の高度化が可能な一貫教育体制を構築します。

今後とも引き続いてのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成29年度から教育学部はリニューアル

― 小･中学校段階を通して系統的教育実践が可能な教師の育成 ―

島根大学教育学部はさらに機能強化した学部へとリニューアルし、現代的教育課題や今後の地域の少子化傾向などに対応し、“これからの時代に必要とされる教師”を育てます。

■新たな教育学部が目指すもの

新たな教育学部では、以下のような教員の育成を目指します。

○グローバル教育、アクティブラーニングなど現代的教育課題に対応する知見や教育実践力をもち、地域の教育課題解決に地域と協働して取り組める教員

○高度な教科教育指導力をもった小学校教員、小学校からの子どもの段階的発達や教科教育の系統性について精通した中学校教員

○小学校から中学校の義務教育段階における子どもの育ち（発達）理解を基盤に、一貫性･系統性をもった小･中学校における教育実践が可能な教員

■教育学部の機能強化の概要

⑴これからの教員（特に山陰地域）に求められる「小学校と中学校の教員免許状の取得（両免許の併有）」が可能な教育課程･教育体制を整備します。このため、異校種（「小⇒中」「中⇒小」）の組み合わせによる新しい主・副専攻制とします。さらに、主・副専攻以外の免許取得をめざす「免許プログラム」を開設します。

⑵教職大学院へのブリッジ教育、現代的教育課題や地域課題への対応など、新たな授業科目を新設し教育課程の強化を図ります。

⑶今後の少子化や教員需要を見据えた学生定員数の減に伴い、これまで以上にきめ細やかな実習指導や就職支援を行います。

平成29年度からの「主･副専攻制」，学生定員数（前年度から40名減：130名定員へ）

初等系主専攻	→	中等系副専攻
初等教育開発		言語教育（国語）
特別支援教育		言語教育（英語）
		共生社会教育
		数理基礎教育
		自然環境教育
		家政教育
		技術教育
		健康･スポーツ教育
		音楽教育
		美術教育

中等系主専攻	→	初等系副専攻
言語教育（国語）		初等教育開発
言語教育（英語）		
共生社会教育		
数理基礎教育		
自然環境教育		
健康･スポーツ教育		
音楽教育		
美術教育		

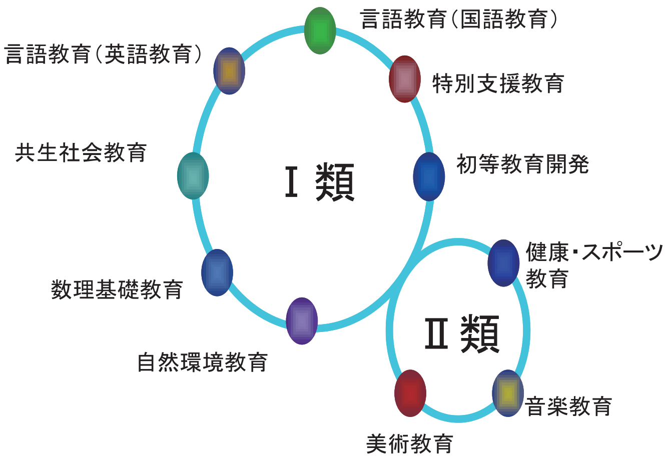
※推薦入試で入学した場合は，主専攻の選択に制限があります。

■専攻分野の組織改編

人間生活環境教育専攻を変更し、特に小学校免許に加えて、又は主要教科免許（中学校）に加えて実技系教科免許をもった教員の育成を目指します。

人間生活環境教育主専攻（家庭科免許，技術免許，工業免許，幼稚園免許）
- → 家政副専攻（家庭科免許）
- → 技術副専攻（技術，工業免許）
- → 幼稚園免許プログラム（幼稚園免許）

（平成29年度）
島根大学教育学部の専攻分野



■新設科目（学部）による教育課程の改善

教育学部では、以下の授業科目を新たに開設し、教育課程の改善を図ります。

○「グローバル教育」に対応する科目

○「主体的学習（アクティブラーニング）」のための教育方法に関する科目

○ 山陰地域の教育課題に関る科目

○「教職大学院」への連結のための科目

■未来教師塾による就職支援

教育学部では、就職支援室による支援のほか、「未来教師塾」を開設し、教員採用試験のための「教師力パワーアップセミナー（年５回程度）」､「SKセミナー（前期月曜9.10時限開講）」、「マナーアップセミナー」、「先輩教員による講演会」等を実施し、教員就職へのサポートをしています。

1年 学生の年間スケジュール紹介

入門期セミナー

初年次教育プログラムの一つである1泊2日のセミナーです。1000時間体験学修プログラムを理解し、4年間の大学生活の見通しを持つことを主な目的としています。4年間を共に過ごす仲間や学生スタッフの先輩との2日間の関わりを通し、幅広い人間関係を築くことができます。

1年生にとって、大学生活への期待がふくらむ有意義なセミナーです。

教育学部で学ぶこと

1年前期に開講される、専門教育科目の基盤となる科目です。文献検索やレポート作成など、大学生としての基礎的なアカデミック・スキルを身につけるとともに、授業観察や授業協議など、教育学部生に必要となる技術を身につけます。また現代的教育課題についての理解に基づいて、自らの進路に応じた履修モデルを構想します。

大学祭

松江キャンパスでは「淞風祭（しょうふうさい）」という名称で毎年10月に開催されています。

基礎体験交流会

1・2年生を対象とした基礎体験の意見交換会です。先輩や他専攻生の話を聞き、今後の各自の基礎体験活動の充実を図ります。

◉◉学部（大学）行事等　★web入力（必須）

月	行事
4月	◉入学式・オリエンテーション ◉入門期セミナー ★教職志向・進路調査 ◉基礎体験合同説明会 ◉基礎体験活動開始
5月	◉専攻決定ガイダンス ◉一般教養ちからだめし ◉学校教育実践研究Ⅰ
6月	◉学校教育実習Ⅰ
7月	◉地域理解セミナー（仮称）
8月	◉主専攻決定
9月	◉スタートアップセミナー ◉在学生ガイダンス ◉副専攻仮決定（年度末に決定）
10月	◉大学祭
11月	
12月	◉介護等体験登録締切
1月	◉介護等体験説明会
2月	◉基礎体験交流会
3月	◉副専攻決定

学校教育実習Ⅰ 教職志向・進路調査

学校教育実習Ⅰ（前期・20時間）

附属学校園で5日間、午前中は授業観察を行い、午後は大学で観察のまとめと振り返りを行います。

実習後には、第1回教職志向・進路調査を紙媒体とWebによって行います。

学校教育実践研究Ⅰ

学校教育実習Ⅰと連動して水曜3コマに開講されるコア授業科目です。大学4年間の学びにおける教育実習の位置づけを理解するとともに、「教わる側」から「教える側」への視点の転換を図ります。また、学校教育実習の期間中には、自ら作成した授業（保育）記録に基づいて建設的な授業協議を行うための基礎的な技能を身につけます。

基礎体験活動開始（1000時間体験学修プログラム）

必修の100時間（基礎体験セミナー・介護等体験など）と選択の540時間の時間認定が必要です。選択の活動では、地域のイベントや社会教育施設の活動、小・中学校での学習支援など、多様な活動に参加できます。

地域理解セミナー（仮称）

これから本格的に基礎体験活動を始める1年生対象の基礎体験セミナーです。地域における学校現場以外での教育活動について理解を深めたり、基礎体験活動におけるルールやマナーについて確認したりして、安心して活動に取り組むことができるためのセミナーです。

スタートアップセミナー

入学時からの基礎体験活動の取組を振り返る基礎体験セミナーです。体験時間の確認、活動参加への心構えや手続きの再確認を行います。また、小グループに分かれて体験発表会などを行い、今後の活動をさらに充実させていくためのセミナーです。

2年 学生の年間スケジュール紹介

学校教育実習Ⅱ

教育実習Ⅱ（通年・20時間）
附属学校園で行う教科指導を中心とした観察実習です。主専攻に対応する校種・教科の授業参観・授業協議を行い、ポートフォリオを作成するとともに模擬授業演習等を行うことによって授業設計の基礎を培います。3年生で行う実習Ⅲを履修するためには、2年生終了時までに別途定められた履修資格を満たしている必要があります。

充実期セミナー

2年生を対象に開催される基礎体験セミナーです。各自の取組の傾向をもとにしたグループでの活動を通して成果や課題を明らかにすることを目的としています。また、学内資格を取得している先輩からのアドバイスを受けることもできます。

教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取組です。3月の「宿泊研修」には2年生から参加できます。教員採用試験の合格者や現役教員である先輩との交流会もあります。

◉学部（大学）行事等　★web入力（必須）

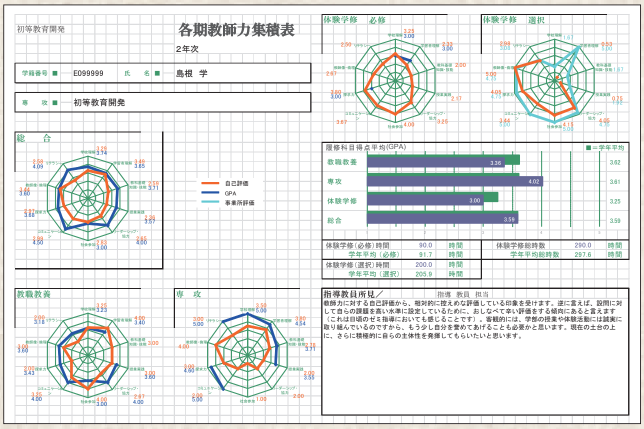
月	行事
4月	◉在学生ガイダンス ◉健康診断 ◉介護等体験事前指導 ★教職志向・進路調査
9月	◉充実期セミナー ◉在学生ガイダンス
10月	◉プロファイルシート（PS）作成説明会 ★PS入力
11月	◉PS返却 ★PSまとめ ★教職志向・進路調査
10月～1月	◉C系・G系
12月	◉教員採用試験合格者体験報告会
2月	◉基礎体験交流会 ◉教師力パワーアップセミナー
4月～3月	◉学校教育実習Ⅱ
3月	◉ポートフォリオ提出締切
4月～1月	◉介護等体験

介護等体験

特別支援学校及び社会福祉施設（老人ホーム等）で、あわせて7日間の体験を行います。
〈内訳〉
●島根県又は鳥取県内の特別支援学校での体験（2日間）
（例）授業の補助、学校行事等校務全般にわたる補助等の体験等
●島根県内の社会福祉施設（老人ホーム等）での体験（5日間）
（例）介護・介助、障がい者等の話し相手や散歩の付添い等の交流の体験、掃除や洗濯等受入れ施設の職員に必要とされる業務補助等の体験等

C系・G系

学校教育体験領域における実習で、1000時間体験学修の体験時間としてカウントされます。2年生の後期と3年生の前期に開講され、半期毎にどちらかを受講することになります。**C系**は個人（子ども・保護者）に対する支援（Counseling）を想定した実習で、相談場面のロールプレイを通して、よりよい聴き方や相手の気持ちに添う関わり方について学びます。**G系**は学級集団形成など集団における支援（Group approach）を想定した実習で、自分や相手の特性に関する気づきを促すグループ活動を通じて、よりよい学級集団づくりの技能を学びます。



プロファイルシート

大学での学びの状況は、履修単位の成績評価だけで計ることのできない広がりをもっています。プロファイルシートは、そのような学生一人一人の学びの成果と軌跡を記録する「カルテ」です。プロファイルシートの作成は、4年間で3回、大学生活の節目の場面で行います。その目的は、教師に必要な能力の総体である「教師力」の修得状況を、複数の評価視点（自己評価、他者評価、客観的評価）によって可視化し、学びの状況とこれからの目標を確認することにあります。

3年 学生の年間スケジュール紹介

学校教育実践研究Ⅱ

学校教育実習Ⅲ･Ⅳと連動して開講されるコア授業科目です。主専攻に対応する校種･教科の授業実践に焦点化し、授業分析や教材研究、学習者理解を基本とした教材制作のトレーニング、学習指導案作成と模擬授業を行います。また事後指導では、自らの実習を深化・発展させるためのふりかえりを行います。

学校教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

●学校教育実習Ⅲ（前期・40時間・1単位）
主専攻に対応した教育実習です。附属学校の授業観察を通して、授業を「教師と学習者のコミュニケーションの総体」として把握し、学校教育実習Ⅳに必要な授業実践力の基礎を培います。

●学校教育実習Ⅳ（後期・120時間・4単位）
主専攻に対応し、授業実践に主軸を置いた教育実習です。教科指導をはじめ、学習集団の形成や学級経営に係る実践的トレーニングを行い、教職へのより深い理解と基礎的な実践力の育成を図ります。

●学校教育実習Ⅴ（後期・40時間・1単位）
副専攻の校種・教科に対応した観察実習主体の教育実習です。学齢期にある子どもの「成長」、「発達」をより長いスパンから捉え、子ども理解を深めます。

実習セメスター

3年生の後期は実習セメスターとなっています。この期間に教育実習Ⅳ・Ⅴを行いますが、実習を行わない期間を活用して特別に用意された基礎体験活動を行います。公立小中学校･幼稚園に教育体験に行くことができ、教育実習とこの学外教育体験を往還させることによって、より幅広い教師力を身につけることが期待できます。

◉学部（大学）行事等　★web入力（必須）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実習	◉学校教育実践研究Ⅱ（4月〜7月）	◉学校教育実習Ⅲ（5月〜6月）	◉実習セメスター説明会		◉実習セメスター合同事前指導	◉実習セメスター（9月〜12月） ◉学校教育実習Ⅳ（9月〜10月）		◉学校教育実習Ⅴ				
講義・その他	◉在学生ガイダンス ◉健康診断 ★教職志向・進路調査 ◉C系・G系（4月〜7月）					◉在学生ガイダンス		◉プロファイルシート（PS）作成説明会 ★PS入力 ★教職志向・進路調査	◉面接道場 ◉応用期セミナー ◉教員採用試験合格者体験報告会	◉PS返却 ★PSまとめ	◉教師力パワーアップセミナー	

面接道場

外部の目を通して、教育学部学生に対する期待や要望を学ぶ機会が特別に設けられています。それが「面接道場」です。人生の達人である学部評価委員の方々が、面接を通して社会人としての基本的な資質を伝授してくださいます。

応用期セミナー

3年生対象の基礎体験セミナーです。実習セメスター及び教育実習での活動を振り返り、今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を促す時間とします。学外体験活動や教育実習での学びの発表会や進路希望別グループでの協議を行います。

教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取組みです。3月の「宿泊研修」に始まり、教員採用試験の面接対策や卒業後の教員生活ですぐに必要となるスキルを研修します。教員採用試験合格者や現役教員である先輩との交流会もあり、不安や悩みを解決できるセミナーです。

4年 学生の年間スケジュール紹介

学校教育実習Ⅵ

学校教育実習Ⅵ(前期・40時間・1単位)[選択]
幼稚園実習(通年・80時間・2単位)[選択]

それぞれの教職志向に対応し、主体的に選択する学校教育実習科目です。取得したい免許状に基づき、学校教育実習Ⅵ、幼稚園実習のいずれかを選択します。

教師力パワーアップセミナー（未来へ向けて）

このセミナーは採用試験に合格した人、不合格だったけれども講師として頑張ろうと考えている人、つまり来年の4月から教壇に立つ皆さんの未来に向けてサポートするものです。
学級担任を想定した「学級開き」の模擬授業やラウンドテーブル、中堅教員との交流会を通して皆さんの教師力をさらにアップさせます。

学生教育情報

これらの情報は、同学年や全国の動向などをふまえ、みなさんの就職支援を行う上で有益な情報となります。たとえば、あなたの現在の履修状況と進路希望とのより良い組み合せが発見されるかもしれません。また、教員採用試験を受験する予定の県の情報をブログシステムで把握したり、就職を希望する県教委から依頼があった際に、素早く連絡を受けて就職につなげることもできます。

◉学部（大学）行事等　★web入力（必須）　■教員採用試験関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卒業研究			◉題目提出締切り（指導教員に提出）							◉卒業論文提出 ◉卒業作品提出(美)	◉口頭試問 ◉卒業演奏試験(音)	
教員採用試験	◉教師力パワーアップセミナー	■願書提出		■一次試験	■合格発表	■二次試験 ■講師登録	■合格発表	◉教師力パワーアップセミナー（未来へ向けて）		■各教育委員会による合格者研修		■勤務校決定 ■講師採用の連絡
その他	◉在学生ガイダンス ◉健康診断 ◉進路希望調査	◉学校教育実習Ⅵ			◉大学院出願（Ⅰ期）	◉発展期セミナー ◉在学生ガイダンス（就職・進路調査） ◉プロファイルシート（PS）作成説明会 ◉PS入力 さらに自分を磨く基礎体験（学校体験を中心に） ◉大学院入試（Ⅰ期）		◉教育職員免許状申請手続 ◉教職実践演習		◉1000時間体験学修時間認定締切り ◉大学院出願（Ⅱ期）	◉PSまとめ入力	◉卒業式［PS返却］ ◉進路状況調査 ◉大学院入試（Ⅱ期）

★教員採用試験・就職活動で変化がある度に就職支援室に報告する。また教師力育成総合支援システムにも同じ内容を入力する。

教員採用試験
先輩からのアドバイス

- ◆受験する都道府県を早めに決め、出題傾向を分析
- ◆試験問題にはヤマをはらずに、分析結果をまんべんなく
- ◆二次対策（面接、実技など）も早めに
- ◆提出物は早めに作成、必ずコピー、早めに提出必ず誰かに読んでもらう
- ◆問題集・参考書はあれこれ手を付けても意味がない。同じものを何回も
- ◆先輩のアドバイス、体験談は何よりも貴重
- ◆自分の試験勉強のリズムを早く見つける（息抜きの時間も必要）
- ◆友達の良いところはどんどん真似して取り入れる（仲間は大切）

未 来 教 師 塾

教員採用試験対策

〈教師力パワーアップセミナー〉
- ◉主に面接(集団・個人)、集団討論の練習をします。
- ◉教育学部の教員や学外の教育関係に携わっている方が面接官をしてくださいます。
ここでのアドバイスはとても重要です。

〈就職支援室〉
- ◉証明写真の試し撮り、面接の様子を撮影してくれるサービスを開始
- ◉各都道府県の教員採用試験動向情報を提供
- ◉その他の就職相談

〈その他〉
- ◉教員採用試験受験テキストブックをチェックする
- ◉各種セミナーに積極的に参加する。
- ◉学部情報ブログをチェックする。
（教員採用試験情報が日々更新）

卒業生の声

わたしの４年間

初等教育開発専攻　西村　明音

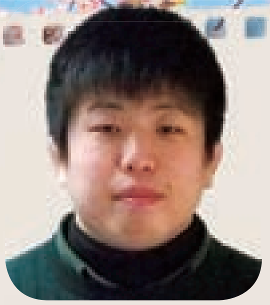
振り返ってみると大学の４年間は、自分と向き合えた大切な時間でした。就職活動はもちろんですが、大学生活で色々な人と関わったり、たくさんある時間をどう使うかを考えたりする中で、自分はどんな人なのか、何がすきなのか、どんな人になりたいのかがだんだんと見えてきたからだと思います。

そんな私が入学当初から大切にしてきたことは“楽しんだもの勝ち”という気持ちです。授業や課題などやらなければならないことはたくさんありました。もちろんそれらにも全力で取り組んでいましたが、私はそれと同じぐらい遊ぶこと・楽しむことにも全力でした。課題に早めに取りかかることで時間を作り、色々なところに旅行に行ったり、友達とご飯に行ったり、映画三昧したり、小説を読みあさったり、新たな趣味にチャレンジしたりして、時間がある今だからこそできることを楽しみました。楽しむことに貪欲になることで、大学生活をより楽しめた気がします。

私は小学校の先生になることを目指してこの島根大学に入学しました。島根大学の魅力はやはり1000時間体験活動だと思います。大学の講義で多くの理論については学べますが、実際の学校現場や子どもたちの様子、自分の得意・不得意を知るためには“やってみる”“実感する”ことがとても大切になってくるからです。島根大学は1000時間体験活動という体験活動に取り組める仕組みが既にあるので、様々な種類の活動の中からトライしてみたい活動に気軽にチャレンジできるところや、そういった活動を学校側がサポートしてくれるところが魅力だと思います。せっかく島根大学教育学部に来たのなら、この1000時間体験活動を自己分析、能力アップのために有意義に使ってみてください。

来年度からは山口県に戻り、小学校の先生として働きます。働く中できっと辛くて泣いてしまうことや逃げ出したくなることもあると思いますが、優しさと笑顔だけは忘れずに頑張っていこうと思います。

島根大学教育学部でしかできない学び



初等教育開発専攻　松山　高士

私は将来、地元である山陰に貢献できる教員になりたいと思い島根大学教育学部に入学しました。はじめの頃は、授業に部活、そしてバイトといった忙しい毎日に追われ、何も意識することなく、ただただ大学生活を送っていました。そうこうしているうちに２年に上がり、自分の専門科目の授業が増えてきた頃から、島根大学教育学部には他の大学にはない魅力があることに気づき始めました。

私自身、大学入学前は、教育学部といったら授業方法や子ども達との接し方などを学ぶものだと思っていました。しかし、そういった内容に加えて、島根大学では「教育の本質」について考えさせられる機会が多くあります。「教育とは何をしているのか」「なぜ学校に行かなければならないのか」「本当に教えるべきこととは何なのか」といった非常に哲学的な課題について、世界規模の視点で考えを深めていきます。もちろん、その中で教育が抱える影の部分にも焦点を当てなければならず、教員という職業に目指すことに自信を無くしそうになることもあります。しかし、そうした経験が私を含め、全ての島根大学教育学部生の強さに変わっていっていると実感しています。

私は小学校からの学校生活の中で、ここまで頭をフル回転させたことはないと思います。答えのないかもしれない問題について、考え、考え、考え尽くし、自分なりの結論を導きました。さらには、自分の考えを試す場もあります。1000時間体験学修です。そうして考え、試し、得た知識は本当に自分のちからとなって今に生きています。

私は４月から、鳥取県で中学校の英語教員として働くことになります。自信を持って教師という職に就けることも、島根大学教育学部で４年間学んできたからこそだと思います。これからもこの魅力あふれる大学の出身者として精進していきたいと思います。

人との出会い

初等教育開発専攻　四元　実佐

私は小学校教諭になりたいという夢に近づくために、島根大学の教育学部に入学しました。初めてのことが多くある中で、私は「人との出会い」を通して、充実した大学生活を送ることができたと思います。

島根大学教育学部は、教育実習、1000時間体験学修、公立小学校での学習支援体験などのプログラムが充実しています。特に私は1000時間体験学修に力を入れ、4年間を過ごしてきました。その中で、今まさに成長過程にある「生」の子どもたち、実際に現場に出て教員をしておられる先生方、一緒に力をつけようと高め合える仲間と出会いました。「生」の子どもたちとのかかわりを通じて子どもの持つ底力やそれを信じてかかわることの大切さを学びました。また、現職の先生方に叱咤激励していただき、社会に出ることの責任を知り、自分の成長を確かめることができました。そして、兄弟のように共に4年間歩んできた仲間とのかかわりの中では、くじけることなく、支え助け合って進み続けることの大切さを学びました。

このように、人との出会いの中で大切なことを少しずつ学んだのが私の島根大学での4年間だったような気がします。その中でも「自分らしく在ること」。これが大学生活での1番の収穫だと感じています。ありのままの自分を必要としてくれる、思いきり自分をさらけ出してかかわってくれる、そんな人たちと過ごす中で、かっこよくなくても「自分らしく在ること」に前向きになることができました。人と出会い、たくさんの経験ができたのは、大学の先生方や陰で支えてくれた家族の存在があったからです。温かい人たちの中で学んできたことを将来に活かしたいと思います。

この春から岡山県の小学校教諭として社会に出ます。自分が大切にされてきたように、目の前にいる子どもや周りの人を大切に、また「自分らしく」日々を過ごしていきたいと思います。

自分らしく学べる場所

特別支援教育専攻　森本　早花

私は、障碍がある子供たちに自信をもって生きていってほしい、またその背中をおしていける存在になりたいと思い、島大教育学部に入学しました。入学当初は知り合いもほぼおらず、もともと人見知りな性格でもあったため、新しい環境での生活に戸惑いを感じていました。しかし、島大教育学部では同回生、先輩後輩と共に学び合う機会が多く、私は4年間を通して、これからも繋がっていたいと思える仲間に出あうことが出来ました。部活動を続けながら学業にいそしむことが出来たのも、見守り応援してくださった先生方のおかげです。このように、周囲の環境に恵まれ、自分らしく大学生活を過ごすことができ、新しい自分を発見することも出来ました。

勉強は楽しい時もあれば悩む時もあります。教育学部は体験から学ぶ機会が多くあります。講義で学ぶときによく用いられていた“一般的には”という言葉がどういうことであるかも、実際に子供と接することで知ることが出来ました。同じ子供は一人もおらず、自分の思うように関われないことに、もどかしさも感じることもありました。しかし、それらにしっかりと向き合い子供から返ってきたときには言い表せないほどの喜びを感じました。悩み向き合う数だけ多くの学びを得ることができ、そのような体験の機会が充実しているのも島大教育学部の魅力であると感じています。

4月からは島根県の特別支援学校教員として働きます。子供たちの個性を尊重し、“できない”ばかりに目をむけるのではなく、“よさ”に気付き、子供に伝えていける教師になりたいです。多少の不安もありますが、子供たちとの出会いに今はワクワクした気持ちが強いです。大変なことも多く待ち受けていると思いますが、多くの事を吸収し、前向きに自分らしく頑張っていきたいと思います。

卒業生の声

人とつながることを自分の武器に！

共生社会教育専攻　小林　大輝

私の島根大学教育学部での学びは、多くの人に支えられたものであったと感じています。1000時間体験学修の基礎体験は、私にとって、学びを得るために人とつながる一つのきっかけを与えてくれました。私は、中学生時代の原体験から、「人をやる気にしたい」「頑張ることは楽しいということを伝えたい」という想いの下に、教師という仕事を志望しました。この２つのことを伝える力を身に付けることを課題として、子どもの本気と向き合い、ともに限界に挑戦する活動や、生徒と「対話」をする活動、地域に密着した「遊び」や「学び」を考える活動に参加しました。活動を通して、教師になってやりたいと思うことを具体的に考えるきっかけを得ることができました。特に、子どもの「本気」や「本音」と向き合う「対話」や、人生のロールモデルは、自分の思いを叶えるためのキーワードであると実感しました。この事に気付くことができたのは、1000時間体験学修での「体験」を通して、自らの課題に対して実感をもって考えることができたためであると感じます。

また、共生社会教育専攻で培った人とのつながりも忘れられません。実習や卒業研究に取り組んだとき、専門書を借りに行ったり、授業づくりのアドバイスをもらいに行ったりさせていただきました。また、実習を通して、多くの仲間から授業実践についてアドバイスをもらうことができ、授業の改善や授業実践に取り組む勇気につながりました。

そのように、「人とつながる」ことで自分が活躍する基盤をつくることができることは、島根大学教育学部の魅力だと考えます。

このような「人とつながる」ことから得られる学びは、大学生だけでなく子どもたちにとって必要な学びではないでしょうか。これから教師として「人とのつながり」を武器にした教育を行っていきたいと思います。

経験のなかで得たもの

自然環境教育専攻　山代　一成

私は、将来教員になりたいと強く思い、この島根大学教育学部に入学しました。島根大学教育学部には多くの体験ができるカリキュラムがあり、魅力を感じたためです。

この教育学部は1000時間体験学修を初め、数多くの実習があり自分のスキルを上げるにはとても恵まれた環境だったと思います。子どもの学習支援や社会教育施設でのボランティア活動、公立中学校への教育実習などさまざまな活動をしました。活動の中では、適切な支援ができない場面や企画・運営で不十分な部分が浮き彫りになった場面など自分の未熟さを痛感することがたくさんありました。自分の至らない部分は一緒に活動していた仲間や体験先の方々に助言をいただくなどをし、悩みながらもより良いものを求めていったのを覚えています。自分のできないこと・苦手なことを認識し改善する、同時に得意なことは伸ばしていくことで、経験の中で「現状を知る力」を伸ばすことができたと思います。それは、自分自身の向上心にもつながっていると思います。

経験の中で身につけたこの「現状を知る力」は、社会に出た後でもとても役に立つと考えています。現状を知ることで、次の課題が明確に見えてきます。そして、次やるべきことがわかるはずです。将来は、中学校の理科教員として働く予定ですが、「子どもを知る」ことが重要になります。子どもの目線に立ち、理解し一緒に考えていくことで、少しでも子どもの支援ができればと考えています。

来年度からは、島根大学大学院（教職大学院）に進学し、教員としての力量をさらに伸ばしていくと同時に、引き続き数多くの経験をし、自分自身を伸ばしていきたいと考えています。

後援会活動の概要 平成28年度

1. 学生教育活動の支援

①1000時間体験学修、面接道場、教師力パワーアップセミナーなど学生教育活動事業経費への助成

②学生の体験活動等の交通費補助（全学年）

③学生の学会発表等の交通費補助

④ＩＣＴルーム等の環境整備への助成

面接道場

パワーアップセミナー

明るくて快適な
ICTルーム 金魚鉢

2. 教育実習の支援

①教育実習を充実させるため、各実習受入校の実習経費への助成（学生が実習で使用する文房具や教材等への助成）

②教育実習ワークシート作成への助成

教育実習

3. 就職活動の支援

①教員志望学生の援助

教員採用試験に向けての対策と指導に関する経費への助成

②教員採用試験受験テキストブック作成に関する経費への助成

③就職支援室の書籍整備等への助成

④企業志望学生の支援

就職ガイダンスを開催し、企業就職関連の各種セミナー等を行なう経費の助成

⑤４年生の就職活動の交通費補助

⑥教員採用試験の模擬試験の受験料補助

4. 国際交流活動の支援

釜山教育大学校（韓国）との交流事業等への助成、テキサス大学、ミシガン大学学生との交流活動への助成

国際交流写真

5. 教育環境整備の支援

構内の教育環境の改善を図り、学生の生活環境の向上及び充実のための施設整備経費への助成（トイレ内整備、玄関の花壇整備など）

正面入口前広場の花や観葉樹

6. 広報事業の実施

後援会事業活動報告及び学部の教育・研究活動並びに学生生活の様子等をお知らせするための後援会「機関誌」を発行

7. 課外活動の支援

在学中における各種部活動、大学祭、寮祭、中四国大学学生競技大会参加等の活動費への助成

平成29年度

教育学部後援会幹事名簿

地　区	氏　名	在学年	学生氏名	備　考
松江市	足　立　智　伸	4年	足　立　知歌子	
米子市	荒　木　祥　子	4年	荒　木　裕　輔	副会長
雲南市	永　井　厚　守	4年	永　井　　雄	
出雲市	日　野　寿　明	4年	日　野　佳寿美	会　長
松江市	石　原　秀　夫	3年	石　原　　翼	
松江市	勝　部　宏　行	3年	勝　部　友　香	副会長
米子市	松　原　智　子	3年	松　原　直　哉	監　事
出雲市	山　根　充　司	3年	山　根　真　美	
松江市	井　上　尊　雄	2年	井　上　真美加	会計幹事
松江市	栗　山　政　和	2年	栗　山　和　暉	
松江市	門　脇　健　次	2年	門　脇　壮太朗	
松江市	須　山　誠　司	2年	須　山　晴　貴	監　事

（順不同、1年生からの幹事は未定）

○発　行　島根大学教育学部後援会
E-mail　edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp
ホームページURL　http://www.edu.shimane-u.ac.jp/edu/koenkai.html

○発行日　平成29年4月1日

○発行所　島根大学教育学部内　教育学部後援会事務局

○所在地　〒690-8504　松江市西川津町1060
TEL（0852-32-6251）
FAX（0852-32-6259）

○印　刷　株式会社谷口印刷